

カイヤドリウミグモの寄生回避に向けた 基礎的研究

○張 成年・山本敏博・丹羽健太郎（水研七増養殖研）・
小林 豊・深山義文・鳥羽光晴（千葉県水総研七）・
山田勝雅（国環研）・良永知義（東大院農）

【目的】2007年に千葉県盤洲干潟で突如発生したカイヤドリウミグモ（以下ウミグモ）は、その後も終息することなくアサリ漁業に被害をもたらしている。本研究では、ウミグモ寄生を回避あるいは軽減する手法開発に資することを目的として、アサリの飼育空間と飼育法がウミグモのアサリへの侵入におよぼす影響について検討した。

【材料と方法】千葉県金田および富津地先の岸寄り（潮間帯）と沖寄り（潮下帯）の計4地点を飼育試験地とした。ウミグモの寄生を受けていないアサリ成貝を未感染地域（横浜海の公園及び浜名湖）から入手した。これらのアサリを目合4mmの網袋に砂利とともに入れ、海底上に設置及びブイを用いて海面下40cmに垂下した。また、アサリのみを入れた袋を海底から一定間隔（0、20、40、60cm）で杭に固縛した。さらに、アサリを蓋付きステンレスカゴ（目合6mm）に入れて海底に埋設した。数週間から数カ月間飼育した後、アサリから採取したエラ部分を0.5N水酸化ナトリウム溶液で溶解し、蛍光色素Uvitex2Bでウミグモを染色し、寄生個体を蛍光顕微鏡で計数した。

【結果】ほとんどの飼育区で寄生が確認され、海底から60cm離れていてもウミグモの寄生が確認されたが、飼育区が海底から離れるに従い寄生強度（アサリ1個体あたりの平均寄生ウミグモ数）は下がる傾向が見られた。また潮下帯に比べ潮間帯では海底からの距離が離れていても寄生強度が高かったことから、潮汐によるウミグモ幼生の巻きあげが関係しているものと考えられた。一方、埋設したステンレスカゴ内のアサリでは海底設置区よりも明らかに寄生強度が低く、何らかの寄生阻害効果があることが示唆された。

尚、本研究は農林水産技術会議**実用技術開発事業**により行った。